

第12回地域冷暖房シンポジウム開催のご報告

当協会では、毎年「地域冷暖房シンポジウム」を開催しておりますが、今年度はその第12回を、国土交通省、経済産業省、環境省及び東京都のご後援、(社)日本熱供給事業協会他6団体のご協賛のもとに、10月13日(木)東京ウィメンズプラザで開催し、約180名の方々のご参加者を頂きました。

今年度のテーマは「エネルギーの面的利用に地域冷暖房の果たす役割」です。

今年2月の、京都議定書発効を受け、4月28日にはCO₂削減の目標達成計画が閣議決定されました。そこでは、エネルギー需要密度の高い都市部での利用効率向上をめざして、エネルギーの面的利用の促進が謳われています。そして、環境性に優れた地域冷暖房の積極的な導入・普及を図ると共に、国・自治体・事業者など幅広い関係者が連携し、面的利用を推進すべく、可能性調査や先導的モデル事業を実施するとしています。そのなかで、当協会では、この面的利用の推進に際し、各方面で指導的な役割を果たされるの方々をお招きし、その具体像についてご講演とディスカッションをお願い致しました。

慶応大学 井手秀樹教授 から「面的利用に地域冷暖房の果たす役割」と題して基調講演を頂きました。

休憩後のパネルディスカッションは、早稲田大学 尾島俊雄教授にコーディネートをお願いし、パネラーには、各界でご活躍中のリーダーにご登壇頂きました。

産業組織論・規制・公益事業論をご専門の慶応大学・井手教授、都市・地域における社会資本整備を進められている国土交通省・斉藤技術審議官、電力・ガス事業をはじめとしたエネルギー行政の推進役である資源エネルギー庁・菅原政策課長、また、社会資本を建設する立場からは鹿島建設(株)・岡本専務執行役員、そして、設計コンサルタントの立場からは(株)日本設計・佐藤執行役員です。

各々、ご専門の立場から、面的利用と地域冷暖房の可能性・将来展望・課題等につき、ご発表頂くと共に、尾島教授のコーディネートのもと、積極的に踏み込んだディスカッションをして頂きました。



慶応大学
井手 教授



早稲田大学
尾島 教授



国土交通省
斉藤技術審議官



資源エネルギー庁
菅原政策課長



鹿島建設(株)
岡本専務執行役員



(株)日本設計
佐藤執行役員



ディスカッションに
臨む講師の先生方



講演に聞き入る参加者の方々

シンポジウム翌日10月14日には、汐留アーバンエネルギー(株)殿の御好意により、汐留北地区地域冷暖房施設の見学会を開催しました。本プラントでは、隣接ビルに設置されたコージェネの、排熱を積極的に利用すると共に、シャーベット状の白い氷が見えるマルチ蓄熱槽、およびフィンボールが水面を覆う大型水蓄熱槽を擁し、電力需要の平準化に貢献しています。さらに、メイン・サブ両プラントのいずれからでも、システム全体を監視出来る等、数多くの特徴を備えた興味深い施設でした。



会議室での施設概要説明



触っても熱くない
炉筒煙管ボイラー



洞道の入口から
冷水配管を見る



マルチ蓄熱槽に浮かぶ
シャーベット上の白い氷